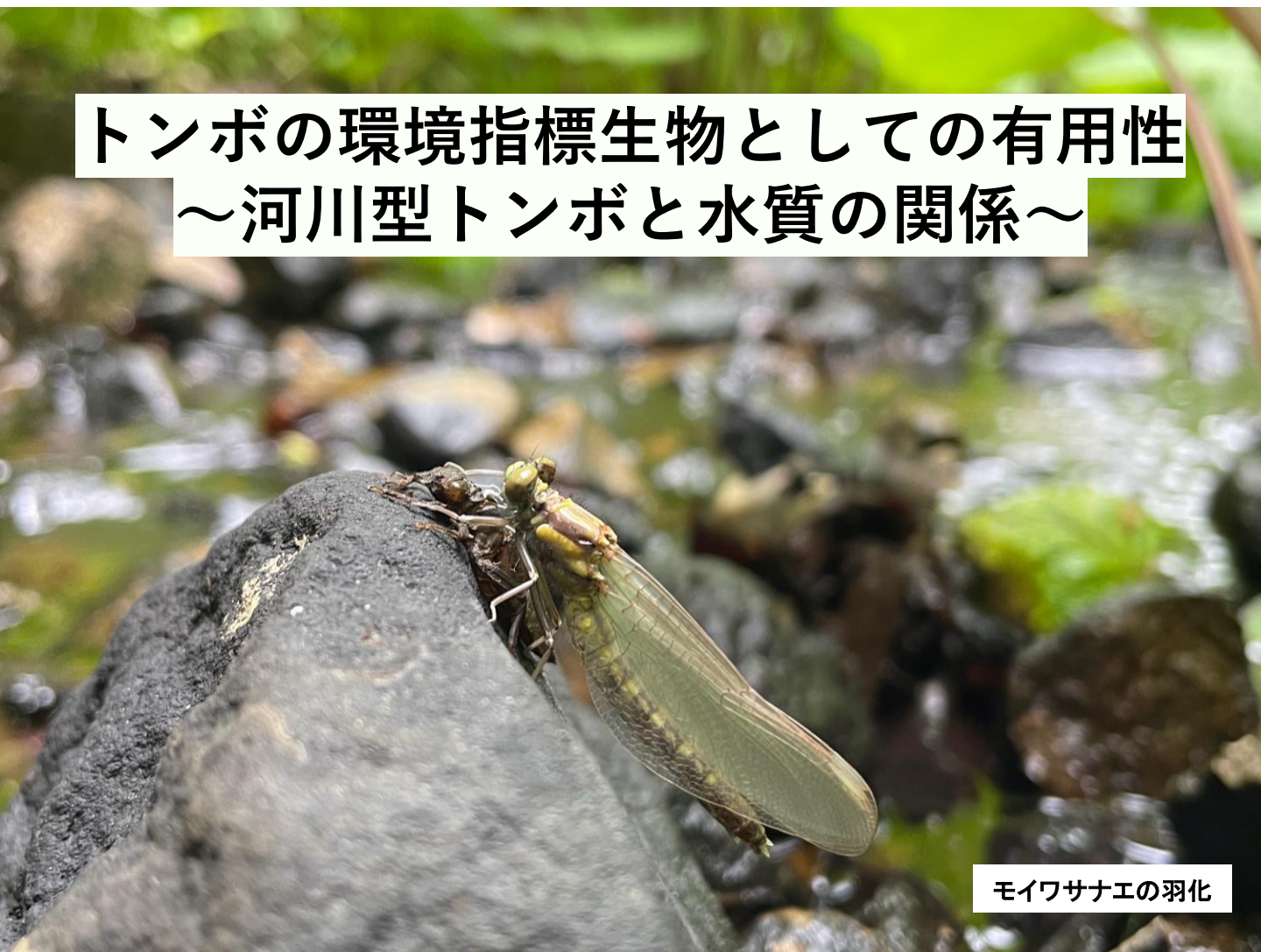




市立札幌旭丘高等学校
サイエンス部 トンボ班

北海道札幌市中央区旭ヶ丘 6 丁目 5 - 1 8

トンボの環境指標生物としての有用性 ～河川型トンボと水質の関係～



モイワサナエの羽化

近年、環境問題が深刻化しています。環境を把握するために、身近な生物を環境指標として活用したいと考えました。トンボの幼体であるヤゴで水質を評価する方法の確立を目的としました。7地点の河川を調査し、「識別珪藻群法で求めた汚濁指数」「パックテストの測定結果」とヤゴの生息状況を比較しました。結果、汚濁指数1.25が河川型のトンボ相の境界になっていることがわかりました。ムカシトンボとオニヤンマは貧腐水、ホンサナエは貧/β-中腐水の指標になる可能性を見出しました。また、モイワサナエは水質適応能力が高いことが判明しました。今後も調査を行い、人間と自然が共生する社会の実現に向けて研究を続けていきます。